

近藤 さえ子の小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声
一本の小枝で結ぶ地域の世代
一本の小枝が渡す地域と区政

*** No.21 2014年1月発行 ***

2014年、新しい年が始まりました。

凍てつく冬を越えると春。家々の庭や公園にパンジー・ストック・チューリップなど春の花がいっせいに咲き乱れ、私たちはふと立ち止まり花々を眺めて幸せな気持ちになります。春、こうして花が咲くのは、何ヶ月も前に土を耕し、種を撒き、球根を植え、厳しい冬の時季も欠かさず水やりを続けた人たちのおかげです。

必死に子育て中の若いママたちには、その時間が見えません。早く早くと子育てに成果を求めてしまい、花が咲くまでの長い冬が待ちきれません。

周りの大人たちが、太陽となり、水となり、子どもたちの成長を見守り、子育てに悩む親たちを「縁の下」ならぬ「緑の下の力持ち」となって優しく応援できる地域でありたいと思います。

本年もよろしく願いいたします。



いま中野区は！

コミュニティバス「なかのん」(愛称も廃止)

2005年に運行開始した中野区で初めてのコミュニティバス「なかのん」は、コミュニティバスとしては廃止され民間バスの1路線となりました。中野区は、3年間だけバスの補助を出し、その後は民間の運営に委ねる方針でしたので、乗客数が伸びないまま運営してきた民営のバス会社は、1時間1~2便(以前1日27便)、終バス17時台(以前19時台)と運行を減らしました。(再度運行計画変更の可能性あり)

中野駅へのアクセス不便地域であった鷺宮・上鷺宮地域の住民からは、大変便利だと喜ばれてきた「なかのん」ですが、コミュニティバスとして定着しなかったことは残念です。第四回定例会に、区民から安定的な運行を求める陳情がありました。

武蔵野市の「むーバス」、杉並区の「すぎ丸くん」等、住民に愛される「足」を想定し、私も議員として初めての質問で採り上げ、やっと実現したコミュニティバスですが、今後は、中野区の高齢者、交通不便地域の「足」をどのように作っていくかという全体的な問題として考えていくことになりました。

中野区の教育長

現在の教育長の任期が切れるのに伴い、12月5日の本会議で、区長から教育委員選任の同意がありました。教育委員には現教育長が再選されました。現教育長は9年前、総務課長の立場で、病欠の幹部職員のタイムレコードを約2ヵ月にわたり不正に打刻し、事件発覚後「不正な給与支払いが行われ、区民に損害を与えた」と区民から裁判を起こされました。

この人事に対し、民主・共産、無所属の議員15人が反対しました。区長提出の人事案件でこれだけ反対者ができることは稀です。

教育長は、教育委員の中から選ばれます。12月13日の教育委

員会で現教育長が再選され、自ら不正を行った人が2期(8年)に渡り教育現場のトップに就くことになりました。これでは「不正や犯罪は許されない」と子どもたちを健全に育てることを標榜する教育委員会の姿勢も問題となり、子どもたちにも示しが付きません。

区民の皆さんはどのように考えられますか。

中野区のスポーツ施設

2020年第32回夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり、国全体がスポーツブームです。

中野区にも、新しいスポーツ施設が次々と建設されます。中野富士見中学校跡地の「南部すこやか福祉センター」には、会員制地域スポーツクラブの温水プールの設置が計画されています。このプールの維持管理に、年間1億円かかる予定です。(他にも4カ所地域スポーツクラブ設置予定)

現在新築中の中野中学校には、地下に温水プールが作られ、こちらも区民にも解放されます。

また、中野区の南部地域には平成27年度開園予定の「(仮称)本町五丁目公園」(1.2ha)に人工芝の運動広場ゾーン(4,600㎡)が整備され、平成28年度開園予定の「(仮称)南部防災公園」(1ha)にも人工芝の運動広場(2,900㎡)が作られます。

「区民待望のスポーツ施設」が次々作られ、区民のスポーツの環境は格段に広がりますが、老朽化し建て替えが必要となる中野体育館や、劣化した上高田の運動施設等既存の施設への対応はどのようにしていくのでしょうか。(裏面「私の議会報告」第三回定例会総括質疑指定管理者制度参照)

財政が厳しい状況の中で、高齢化はさらに進みます。中野区全体のスポーツ施設の維持・管理・運営費は、今後、区全体の財源を圧迫していくのではないかと危惧されます。

ブログより



<http://saekonikki.exblog.jp/>



日々の活動をお知らせしています。

11.16

内閣府主催 平成25年度犯罪被害者等施策研修会(福岡県)

博多で開催された内閣府による平成25年度犯罪被害者等施策研修会に講師として招かれました。福岡県の各市町村、法務省等の職員約60人が私の話に耳を傾けてくださいました。私の後、中野区の犯罪被害者支援窓口の職員が中野区の取り組みを説明し、その後、聴講の自治体職員がグループに分かれて「自治体でどのような支援ができるのか」を話し合い発表しました。

私の講演や活動をきっかけとして、多くの方が自治体の仕組みを作ることを学ばれ、動いてくださることは大変有難く思います。

内閣府の犯罪被害者等施策推進室の池田参事官と自治体の今後の取り組み等を話す機会もあり、私にとっても大変有意義な時間でした。



講師を務める近藤さえ子(左上)

10.27

野方地区委員会&子ども会連絡会 第1回企画行事

野方地区委員会と複数の子ども会が合同で企画した初めての行事、いつもの子ども会より範囲を広げた地域の子どもたちを連れて、巾着田と高麗の里山にハイキングに行きました。小学生25人に対して14人の育成者と保護者6人が付添いました。

高麗駅に着くとすぐ問題用紙を配布し、いろいろなものを見つけながら里山を歩きました。草花、昆虫、果物、高麗石器時代の住居後など、見つかるたびに子どもたちは大きな声をあげて喜んでいました。中高学年はもっと長い距離のハイキングでした。

広い地域の子どもたちの初めての交流行事、大人の不安をよそに、子どもたちは自然に触れ、学校の枠を超えて仲良く楽しく過ごしていました。



平成25年中野区議会第三回・第四回定例会で近藤さえ子は以下の質問を行いました。

平成25年第三回定例会(9月10日~10月11日)

9月12日一般質問

認知症に対する施策について

超高齢化が進む中、認知症のリスクファクターの第一が高齢化であることを考えると、認知症に対する施策が喫緊の課題となってくる。

厚生労働省は昨年9月「認知症施策推進5カ年計画」いわゆる「オレンジプラン」を公表し、認知症の早期診断・早期対応、地域での生活を支える医療・介護サービスの構築、日常生活・家族支援の強化等を挙げ、東京都は「高齢者の安心した暮らしを地域全体で支援」する事業を推進し、都内10か所の認知症疾患医療センターを配置している。

例えば杉並区では、都から700万円の補助金を受け「認知症コーディネーター」を配置し、認知症高齢者の早期発見と対応のため適正な医療介護につなげることを目指している。併せて、ヤマト運輸配送員や民間宅配弁当事業者と覚え書きを交わし、高齢者の地域での見守りを強化している。

また世田谷区では、認知症本人が社会的役割を果たす場の立ち上げ、地域の医療・介護の連携推進、特に家族介護者のための支援の拡充をあげ「(仮称)世田谷区認知症在宅支援センター構想」を策定し始めた。

認知症対策に係わる職員の数を比べてみても、杉並区で保健師2人、新宿区3.5人だが、中野区では他の業務と兼任で、わずか0.5人である。

「オレンジプラン」の中にも「家族支援の強化」が強く謳われている。認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき集える「認知症カフェ」を作ること希望している専門医師の話も聞く。これは、認知症の方とその家族同士が話し合える場所を共有し勇気づけられる空間の提供であり、「最近自分の行動に自信がない」と気になる本人が気楽に足を運び、早期発見・早期医療対応が可能となる医療機関でもある。この場合、公共施設の跡地の転換等を考えることもできるのではないか。

認知症になっても地域で安心して過ごせる中野区を目指すにあたり、待ったなしの施策に早急な取り組みをお願いする。

保健福祉部長



組織や人員も含めた認知症対策を地域支えあい推進室や地域包括支援センターなどの関係所管や機関とも十分に連携をとりながら、必要となる認知症対策の検討体制を組む予定である。

9月19日総括質疑

指定管理者制度と業務委託について

①鷺宮体育館のプールの利用者は指定管理者制度下で減り続け、平成24年度は、練馬区中村南スポーツ交流センターのプールの約半分69,738人である。中村南のプールは新しくきれいで、使用料が安く、従業員の細かな対応等も評判が良い。

学習スポーツ担当

区として指定管理者に対して利用者数向上の取り組みを一層求めていきたい。

②上高田のテニスコートは、部分的補修で継ぎ接ぎの形で危険であり、靴が滑り転倒して負傷者が出たと聞く。早期全面改修を要望する。今後、区内4カ所に地域スポーツクラブを作る計画だが、既存施設のサービス低下がないことを求める

学習スポーツ担当

新しい中野をつくる10か年計画(第2次)ステップ3に上高田運動施設の改修計画は位置付けている。

職員の人材育成について

エキスパート職員の研修予算は足りているか。何らかの権限を持つのか。区内および区外でも講演や研修の講師として招かれる職員が育てば、大きな志を持つ新人採用も可能になるのではないか。

専門職がもっと専門性を発揮しやすい環境を作ることも大切である。

人事担当

職務上の権限は特にない。平成24年度研修旅費8万円、研修受講負担金20万円予算を計上、実績は資格取得受験料5,100円、研修受講料33,500円支出。

学校教育費について

24年度決算説明書中学校校割フレーム執行分一般需要費の学習、管理関係消耗品代に337万2,838円の未執行分が出た。校割予算が毎年減る中、学校は知恵を絞って大変努力をしている。

北中野中学校では、地域の区民が資金と労力を提供し昇降口のスコップづくりをした。財政難の中、区民は生徒たちを支えるため協力している。教育委員会事務局は、予算をもっと有効的に使うよう予算策定・執行にあたって欲しい。

子ども教育経営担当

未執行分は各学校で経費節減等を図ったもの。結果として幾つかの未執行の事業が出てしまったことは反省している。

平成25年第四回定例会(11月22日~12月5日)

11月26日一般質問

①哲学堂公園を文化財として保存することについて

東京都の名勝であり、中野区有形文化財である中野区立哲学堂公園は、東洋大学の創立者井上円了が「日本にも心を養う公園が欲しい」との思慮から、哲学を学ぶ精神修養公園として明治37(1904)年に開園した。哲学に由来する建物や碑があり、花木も多く野鳥が集まる、都民・区民共有の財産であり、幅広い世代の憩いの場所となっている。

現在この哲学堂公園内に、ブルーシートで囲われた場所がある。ここでは、哲学堂77場として設けた1つ「神秘洞」、その洞窟の中が崩れ、復元のための調査を行っている。公園設置後既に100年以上経過し、建築物等もかなり棄損していると思われる。

歴史ある文化財は、後世に引き継がれていくべきで、予算を持って必要な修復等を行い、適切に保存、管理しなければならない。

中野区は現在、観光に力を注いでいるが、オタク文化だけではなく、哲学や歴史を内包する心豊かな文化があることを知ってもらえるよう「心の公園」哲学堂公園の存在をもっと広く発信してはどうか。

都市基盤部長

平成23年度に哲学堂公園保存管理計画を策定、具体的な保存・修復・整備の進め方等について検討中。

都市政策推進室長

都市観光情報発信サイト「まるっと中野」で紹介する等、内外への発信を強化したい。



②ごみの減量化について

昨年の第4回定例会において私が紹介した、江東区の生ごみ減量モニター事業では、47組の区民家庭が4つの方式1.腐葉土を利用した生ごみのたい肥化、2.木箱に黒土と生ごみを入れ消滅させる方法、3.EMぼかし(発酵促進剤)を使った生ごみリサイクル、4.段ボールコンポストを使った取り組みで8か月間ゴミ減量に取り組み、1家庭で1か月平均7キロの生ごみの減量になった。

私は先日、平成23年度1人当たりのごみ排出量が少ない市町村(人口10万人以上50万人未満市町村)の第4位になった東京都日野市にあるコミュニティガーデン「せせらぎ農園」を視察した。

「せせらぎ農園」は市民の手で運営され、週に一度回収する約200件の会員の家の生ごみをたい肥とし、畑で野菜、ハーブや植物を栽培している。あらゆる層の市民が農作業を楽しみながら、食と環境に配慮し地域での暮らし方について考えるきっかけとなっている。この「一般家庭生ごみ循環モデル事業」は、全国的に注目され、各地からの視察・見学が絶えず、昨年度は4,236人の見学者を迎えた。

ゴミの減量は言うほど簡単ではなく、待っていても始まらない。「ごみゼロ中野」を目指す中野区も、住民と一緒に、区と区民が共同で取り組む発想で、まずはモデル事業を検討されてはいかかがか。

環境部長

生ごみの減量化を区民に浸透する方策がなかなか見いだせない。生ごみの減量化策について検討したい。

小枝通信No.20において、女性相談の場所を区役所1階と記しましたが、2階の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

小枝ネット(ホームページ) http://homepage3.nifty.com/koeda_net/

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女として野方に生まれる 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 商社勤務後結婚 現在、2人の大学生との3人家族 中野区議会議員 趣味 テニス

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所 〒165-0027 中野区野方6-45-13 TEL&FAX 03-3330-9584 E-mail saekokondo@mbh.nifty.com